



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月8日

上場会社名 株式会社メニコン 上場取引所 東・名
 コード番号 7780 URL <https://www.menicon.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 田中 英成
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役経営統括本部長 (氏名) 渡邊 基成 (TEL) (052) 935-1515 (代表)
 四半期報告書提出予定日 2019年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	20,613	4.9	1,862	46.3	1,893	51.7	1,242	62.1
2019年3月期第1四半期	19,643	5.4	1,272	△3.3	1,247	△14.7	766	△26.7

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 1,070百万円(55.1%) 2019年3月期第1四半期 690百万円(△48.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	35.25	32.73
2019年3月期第1四半期	21.79	20.21

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	82,668	42,634	51.5
2019年3月期	78,275	42,549	54.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 42,565百万円 2019年3月期 42,468百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	28.00	28.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	28.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,083	5.2	6,502	16.7	6,488	14.9	4,091	14.4	116.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年3月期1Q	36,804,000株	2019年3月期	36,804,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年3月期1Q	1,563,734株	2019年3月期	1,573,484株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年3月期1Q	35,236,814株	2019年3月期1Q	35,178,040株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、添付資料 3 ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米中の保護主義的な通商政策に起因する緊張関係や英国のEU離脱問題を巡り予断を許さない状況が継続しており不透明感が残る状況であります。また、国内経済につきましては、製造業等に輸出の伸び悩みから売上の下振れが生じましたが、設備投資額の推移には底堅さがみられた点、及び企業の強い採用意欲による雇用、所得環境が良化した点に回復の見込みがみられます。

このような状況の下、コンタクトレンズ市場では、海外において1日使い捨てコンタクトレンズを中心としたディスプレイコンタクトレンズが市場を牽引しております。特に、酸素透過性の高いシリコンハイドロゲル素材のコンタクトレンズが伸長しております。さらに、国内市場におきましては瞳を大きくみせることを目的としたサークルレンズや遠近両用のコンタクトレンズの需要が増加しております。

各事業の状況は、以下のとおりです。

[国内コンタクトレンズ事業]

ユーザーの瞳の安全と当社の収益安定に貢献するメルスプラン事業の更なる拡大及び市場において需要が増加している1日使い捨てコンタクトレンズの販売促進活動に注力いたしました。

商品施策といたしましては、当社独自の技術であるレンズ内面にふれずに取り出すことのできるパッケージ「SMART TOUCH (スマートタッチ)」を採用した、「Magic」「1 DAYメニコン プレミオ」「1 DAYメニコン プレミオ トーリック」のディスプレイコンタクトレンズに加え、3ヵ月定期交換型レンズである「フォーシーズン」を中心とした販売促進活動を行いました。チャンネル強化策といたしましては、5月より当社及び当社子会社のコンタクトレンズ販売会社である株式会社ダブリュ・アイ・システム(エースコンタクト)、富士コンタクト株式会社(富士コンタクト)、株式会社エーアイピー(シティコンタクト)におけるショップロゴの「Miru」への統一を進めております。当社グループの販売店は159店舗(2019年6月30日時点)展開しておりますが、全店がグループ展開していることを明確化することに加え、グループ間で更なるシナジーを創出することを目的としております。プロモーション施策といたしましては、4月に浜辺美波さんをイメージキャラクターとして起用したテレビコマーシャルを放映いたしました。これにより新たにコンタクトレンズを利用する若年層への訴求に努めました。また、「初めてMiruキャンペーン」と称し、需要期である春に初めてコンタクトレンズを利用するお客様に対して当社コンタクトレンズ製品の販売促進強化を行いました。

[海外コンタクトレンズ事業]

ディスプレイコンタクトレンズの海外向けオリジナルブランド「Miru」の浸透に努めました。

地域別対策として、北米ではディスプレイコンタクトレンズ事業を強化するため、近視・遠視用、乱視用、遠近両用レンズのそろった「Miru 1 month Menicon」シリーズの販売促進強化をはじめとし、販売チャンネルとエリアの拡大に取り組みました。

欧州では、シリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てコンタクトレンズ「Miru 1 day UpSide」をはじめとし、成長分野であるディスプレイコンタクトレンズの市場において大手小売チェーンのプライベートブランドを中心に、販売を強化しております。また、5月にオランダの現地法人NKL Contactlenzen B.V.において近視進行抑制用のオルソケラトロジーレンズ「Menicon Bloom Night (メニコンブルームナイト)」のCEマーク認証を取得いたしました。当社は同製品の販売地域を順次拡大させ、事業基盤強化に努めてまいります。

アジアでは中国において、オルソケラトロジーレンズやコンタクトレンズケア用品の販売が好調に推移しており、今後も継続して営業活動を推進してまいります。また、シンガポールでは「Miru 1 day UpSide」を4月に導入し、市場から非常に高評価を得ております。

[その他事業]

株式会社メニワンにおける動物医療事業は、医療機器に加え、サプリメントの拡販に取り組みました。当社環境バイオ事業は、堆肥化促進事業の拡大により伸長しました。ライフサイエンス事業は妊活をサポートするサプリメント「プレグナ」シリーズをリニューアルすると共に、眼やライフステージのサポートを目指したラクトフェリンを主成分とするサプリメントの拡販にも取り組んでおります。

このような状況の下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、メルスプランの会員数が増加したことにより売上高は20,613百万円(前年同四半期比4.9%増)となりました。営業利益は原価率並びに販売費及び一般管理費比率の低減により1,862百万円(前年同四半期比46.3%増)、経常利益は1,893百万円(前年同四半期比51.7%増)となりました。以上の要因により、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,242百万円(前年同四半期比62.1%増)となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりです。

①コンタクトレンズ関連事業

コンタクトレンズ関連事業は、売上高は20,225百万円(前年同四半期比4.8%増)、セグメント利益は3,047百万円(前年同四半期比26.1%増)となりました。詳細は以下のとおりです。

コンタクトレンズ関連事業において前年同四半期と比較して伸長した売上高920百万円のうち、主な要因はメルスプラン売上高によるもので610百万円増加しております。これは「春の1DAYデビュー応援キャンペーン」や「メルスプラン×Magic 学生さんのミカタ!! キャンペーン」等により学生を中心としたコンタクトデビュー層の需要を取り込んだ結果、会員数が増加したためです。また、既存会員の「1DAYメニコン プレミオ」や「フォーシーズン」といった高価格帯商品への移行が進んだことも売上拡大に寄与しました。

その他、市場拡大が続く中国事業につきましても引き続きオルソケラトロジーレンズ及びコンタクトレンズケア用品の販売が好調に推移いたしました。

セグメント利益につきましては、広告宣伝費及び販売促進費の効率的な使用に努めた結果、売上高と同様に前期比で伸長しております。

②その他

その他事業は、当社の環境バイオ事業における環境に配慮した堆肥化促進資材「resQ45」の販売が伸長したことを受け、当第1四半期連結累計期間における売上高は388百万円(前年同四半期比14.3%増)となりましたが、経費の増加によりセグメント損失は103百万円(前年同四半期セグメント損失は81百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末において総資産は82,668百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,392百万円の増加となりました。流動資産は主に短期借入の実行による現金及び預金の増加により、644百万円増加し43,229百万円となりました。また、固定資産は主にIFRS16号「リース」適用による使用権資産が増加したことにより、3,748百万円増加し39,438百万円となりました。

(負債及び純資産の部)

負債は主にIFRS16号「リース」適用によるリース債務が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ4,307百万円増加し40,033百万円となりました。

また、純資産は主に配当金を支払ったものの親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ85百万円増加し42,634百万円となりました。

この結果、自己資本比率は51.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の連結業績予想につきましては、2019年5月14日に発表したものから変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,084	20,599
受取手形及び売掛金	8,857	8,601
商品及び製品	9,110	9,352
仕掛品	771	820
原材料及び貯蔵品	2,076	2,078
その他	1,763	1,855
貸倒引当金	△79	△79
流動資産合計	42,584	43,229
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,070	19,194
減価償却累計額	△10,148	△10,303
建物及び構築物(純額)	8,921	8,890
機械装置及び運搬具	19,374	19,582
減価償却累計額	△13,587	△13,631
機械装置及び運搬具(純額)	5,786	5,951
工具、器具及び備品	7,328	7,454
減価償却累計額	△5,892	△6,032
工具、器具及び備品(純額)	1,435	1,421
土地	5,164	5,160
リース資産	849	849
減価償却累計額	△699	△707
リース資産(純額)	149	141
使用権資産	—	4,407
減価償却累計額	—	△159
使用権資産(純額)	—	4,248
建設仮勘定	3,989	4,087
有形固定資産合計	25,447	29,902
無形固定資産		
のれん	2,719	2,487
特許権	1,219	1,158
その他	2,297	2,293
無形固定資産合計	6,236	5,939
投資その他の資産		
投資有価証券	908	847
長期貸付金	55	53
繰延税金資産	1,112	764
その他	1,942	1,944
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	4,006	3,597
固定資産合計	35,690	39,438
資産合計	78,275	82,668

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,471	4,457
短期借入金	32	4,030
1年内償還予定の社債	1,765	1,615
1年内返済予定の長期借入金	1,984	1,936
リース債務	30	694
未払金	2,970	2,549
未払法人税等	1,562	339
賞与引当金	1,592	777
ポイント引当金	105	89
その他	4,053	3,542
流動負債合計	18,568	20,032
固定負債		
社債	3,547	3,215
転換社債型新株予約権付社債	8,000	8,000
長期借入金	3,423	2,967
リース債務	90	3,759
長期末払金	1,425	1,378
退職給付に係る負債	331	331
繰延税金負債	88	93
資産除去債務	102	104
その他	147	150
固定負債合計	17,156	20,000
負債合計	35,725	40,033
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,379	3,379
資本剰余金	2,553	2,553
利益剰余金	39,690	39,944
自己株式	△2,414	△2,399
株主資本合計	43,208	43,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	30
為替換算調整勘定	△786	△942
その他の包括利益累計額合計	△739	△912
新株予約権	38	26
非支配株主持分	42	42
純資産合計	42,549	42,634
負債純資産合計	78,275	82,668

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	19,643	20,613
売上原価	9,227	9,460
売上総利益	10,416	11,152
販売費及び一般管理費	9,143	9,290
営業利益	1,272	1,862
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	4	5
為替差益	—	4
助成金収入	44	41
その他	70	56
営業外収益合計	120	109
営業外費用		
支払利息	47	41
持分法による投資損失	1	24
為替差損	58	—
その他	38	11
営業外費用合計	145	77
経常利益	1,247	1,893
特別利益		
固定資産売却益	0	0
補助金収入	67	4
特別利益合計	67	4
特別損失		
固定資産除却損	4	7
特別損失合計	4	7
税金等調整前四半期純利益	1,310	1,889
法人税、住民税及び事業税	246	287
法人税等調整額	297	359
法人税等合計	543	646
四半期純利益	767	1,242
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	766	1,242

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	767	1,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	△16
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	△83	△141
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△14
その他の包括利益合計	△77	△172
四半期包括利益	690	1,070
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	689	1,069
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

一部の海外子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を適用しております。

当該会計基準の適用の結果、当第1四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表において、有形固定資産の使用権資産4,248百万円、無形固定資産のその他26百万円、流動負債のリース債務664百万円及び固定負債のリース債務3,676百万円が増加しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	コンタクトレンズ 関連事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	19,304	19,304	339	19,643
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	0	1
計	19,305	19,305	339	19,644
セグメント利益 又は損失(△)	2,416	2,416	△81	2,335

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,416
「その他」の区分の利益	△81
全社費用(注)	△1,062
四半期連結損益計算書の営業利益	1,272

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	コンタクトレンズ 関連事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	20,225	20,225	388	20,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	20,225	20,225	388	20,613
セグメント利益 又は損失(△)	3,047	3,047	△103	2,943

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,047
「その他」の区分の利益	△103
全社費用(注)	△1,081
四半期連結損益計算書の営業利益	1,862

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。